



## 部活動に託された未来像とは

千葉県高等学校体育連盟

会長 山崎 成夫

先日まで満開だった千葉女子梅園の傍らで桜の蕾が大きく膨らみ、開花が待ち遠しい時期となりました。まもなく新しい年度が、そしてその先には、新たな時代が始まろうとしています。

今年度も本連盟の諸事業が滞りなく進み、機関誌「年報」を発刊する運びとなりました。これも偏に、県教育委員会をはじめ、県体育協会と関係競技団体、さらに各専門部の皆様の御指導・御協力・御尽力の賜であり、心から感謝申し上げます。また、公務御多忙の中、原稿の執筆や編集に携わっていただいた方々に厚くお礼申し上げます。

さて、本県高校生の活躍は高体連活動に携わる事務局や役員にとって大きな喜びであり、それに應えるかのように、今年も各種全国大会等で力強く存在感を発揮してくれました。夏の「東海総体」では団体7競技、個人15種目で高校チャンピオンが誕生したのをはじめ、入賞総数121は過去最高の好成績となりました。この勢いは秋の「福井国体」につながり、少年種別の大健闘が天皇杯・皇后杯得点の連続入賞を牽引することとなりました。特に少年男子種別では開催県福井に次ぐ好成績を収め、まさに地力がついてきたとの印象があります。また、年末年始の全国選抜大会等でも県勢の活躍を全国に発信することができ、大変誇らしいことだと思っています。選手の皆さんの熱意と努力に敬意を表するとともに、日ごろから御指導いただいている先生方にお礼申し上げます。

事務局では、2年目の関東高体連業務に加え、組織改編後の事業や会議運営の在り方、部活動に係るガイドラインへの対応、2020年インターハイ問題、主催大会危機管理マニュアルの運用等、諸課題の整理と情報共有に努めた1年となりました。また、高体連活動の基盤である財源関連では、基本問題検討委員会を中心に、今後の生徒減少や消費税増税を踏まえた協議を進めていただきました。新年度に関係機関との調整を経て、2020年度からの加盟負担金改訂に向け準備を進めてまいりたいと思います。

このように難しい課題も抱える現状ですが、構想を温めてきた「運動部活動+1（プラスワン）活動」が動き出したことは大変喜ばしいことです。生涯スポーツや地域貢献への新たな役割を模索する活動に、組織的に取り組むことは全国の先駆けとなるものです。モデル校での活動が起爆剤となり、活動の輪が拡がり、オリパラ後のレガシーの1つとして発展していくことを期待しています。昨年、教員対象の研修会で講師を務めた折、参加者に所属校で一番輝いている部活動とその理由を尋ねたことがあります。様々な輝きの理由が語られる中、共通していたのは主体的で多様なプラスαの活動だと感じました。部活動には、これからの社会的ニーズに応えられる可能性が残されており、こうした活動を含めて単なる「部活動の在り方」ではなく、「託された未来像」を考える時期が来ているのだと感じています。

部活動の顧問として、専門部の役員として、そしてその後も様々な立場に関わってきた高体連活動の総決算を、重責に戸惑いながらも会長として関わられたことを大変幸せであったと思っています。この2年間、副会長や各専門部長を中心とする連盟役員・事務局の皆様にご支援いただき、無事任期を全うすることができました。また、事務局当番県を務めた関東高体連の諸事業では、各都県高体連会長・理事長の皆様にご多大な御支援をいただきました。全ての皆様にご改めて厚くお礼申し上げます。

新たな時代の幕開けとともに、高体連活動も次のステップに向けた一步を踏み出さねばなりません。引き続き、関係各位には一層の御支援・御協力をお願い申し上げます。発刊の挨拶といたします。